

2021年12月27日

松阪市議会議長

堀端脩様

市民クラブ

楠谷 さゆり

広報研修会

～YouTuber から学ぶ動画作成のコツ～

研修報告書

日時：2021年12月23日(木) 14:00~15:30

主催：新井康陽、工藤正起

世話人：蒼水会（深田龍）

講師：工藤正起

目的

松阪市議会の議会報告会が、コロナ禍で過去2度にわたって動画発信となっている。YouTubeを活用して発信を続けているが、なかなか再生回数が伸びない。また、最後まで視聴する人の少なさが課題となっている。どう改善すればもっと多くの市民に見てもらえるのか、手がかりを探る。



(講師の工藤正起さん)

講義内容

①講師の方たちが再生回数を増やしている方法

新井さん、工藤さんは TOLAND VLOG というグループで、歴史や神話を面白く話す動画を YouTube で発信し続けているが、コアな視聴者には「Line 公式アカウント」に入ってもらい、グッズの先行販売をしたり、そのメンバーだけへの限定動画を配信したりして、その人たちが特別な存在であることをアピールしてファンを離さない努力をしている。またそのことで視聴者からの意見も聞ける。さらに、それとは別に、「Google フォーム」で意見を聴く場をネット上で作っている。これには基本的には返信はできないので、質問募集やプレゼント企画に活用しているという。



(講師の方たちの紹介)

②新しい視聴者を獲得するには

動画の内容を視聴者に想定してもらってクリックまで誘導するための興味を引く画像と「題名」であるサムネイルを工夫することが大切である。ここで選ばれないとまず見てもらえないので、効果的なワードを使うことと「題名」は長すぎないことも大切である。効果的なワードの例としては「正体」「嘘」など。また「長すぎない」とは10文字程度を意味する。

さらに、動画最初の 5~10 秒で最後まで見てもらえるかどうかが決まると言っても過言ではないので、ここで飽きさせない工夫が必須である。なお、3 秒毎の「効果音」も効果がある。テロップも重要である。

YouTube が動画を見ている人に似たような動画をおすすめする場所に載るとクリック回数が上がり、さらにおすすめ動画に掲載されて広がっていく。

③松阪市議会がなぜ動画を作るのか

松阪市議会の動画は本当に見てもらうためではなく、「やりました」という自分達のために作っている動画であると感じざるを得ない。対象は誰なのか、その人たちが理解できるように作ろうとしているのか考える必要がある。YouTube を見るのは 20~30 代の人々が圧倒的に多く、その利用率はソーシャルメディア系サービス利用者の 90%を超える。それより上の年代には紙媒体が有効と割り切って若年層をターゲットとすると、その層が見るには議会の使う言葉は難しすぎるきらいがある。難しさを和らげるのがテロップであるが、小学生にもわかるように作るのが、本当に「市民にやさしい」議会報告会ではないか。一般人にわからない言葉の羅列では意味がないし、内容も表面的で話題が多すぎるのは YouTube 発信には向いていない。

誰に対して、何を、何のために作るのかを明確にすべきである。

④市議会として出したい情報は何か

市民病院の存続問題なのか、コロナ対策なのか、まつさかマラソンなのか、（予算案・議案などを一つに絞って）「～編」と個別に情報にするのも一案である。市民の側に立ってどんな情報が欲しいか考える必要がある。市民は身近な情報や生活に直接関わる情報が欲しいのではないか。議会報告であるので娯楽（エンターテインメント）にすることはできないが、せっかく動画を作成するならより多くの人に見てもらえるように作るべきであるし、市民は議員がどのように関わって行政の何が変わったのか結果を知りたいと思うのではないか。

⑤今後の動画作成に向けて

一つの方法として、高校生や大学生とコラボしての対談形式というのは若年層の視聴者が増える可能性がある。また、見る側に習慣づけさせるには、定期的に発信する必要がある。市議会の立場を崩さず、総合的な動画は年に2

回でも、話題を一つに絞った「～編」は週に1回が理想的である。PowerPointで「動かない」動画発信より、実際に話をした方が確実に良い動画発信ができるものである。

所感

動画発信は、コンテンツ（内容）以外にも様々な工夫と絶え間ない努力を惜しんでいては、再生回数は増えないものであると認識できた。議会として週に1回の動画配信はほとんど不可能に近いものであるが、アドバイスのように、興味を持ってもらえるようなサムネイルの考案や、PowerPointでなく「動く」動画を作成すべきであることは当然であろう。

より多くの市民の皆さんに見てもらえるような動画発信という視点は、より多くの人に手に取ってもらえる市議会だより「みてんか」や、より多くの人に実際の場所に足を運んでもらう「議会報告会」であっても、根本的な考え方は同様であると思う。決められているから開催しなければならない「議会報告会」からの脱却でなければ、動画発信も成功するはずはないのである。

以上

